

# ボランティア募集 & イベント情報

## ガイドボランティア入門講座 参加者募集

障がい児・者の外出に付き添うボランティアについての入門講座です。障がいについての理解を深め、外出の現状について学びます。はじめての方でも安心して参加できます。

- 【日時】** 2月17日(土)10:00~12:00
- 【会場】** 寺尾地域ケアプラザ(東寺尾6-37-14)
- 【対象】** 障がいのある方の外出付き添いに関心のある18歳以上の方
- 【定員】** 20人(先着順・参加費無料)
- 【申込】** 氏名、年齢、住所、電話番号を電話、FAX、メールで鶴見区社会福祉協議会 移動情報センターまで  
☎ 504-5050 ☎ 504-5616  
メール: idou@yturumi-shakyo.jp
- 【締切】** 2月16日(金)17:00まで



## 第14回鶴見・あいねっと推進フォーラム

- 【日時】** 2月24日(土)13:30~16:00頃
- 【会場】** 鶴見公会堂(豊岡町2-1フーガI)
- 【テーマ】** ともに歩もう  
~つるみはみんなで暮らすまち~
- 【内容】** 第1部 社会福祉功労者感謝会  
基調講演「このまちでともに生きていく」  
講師: 八森 淳氏



鶴見・あいねっと



- 第2部 地域活動の事例発表  
その他
- ・ボランティアコーナー
- ・鶴っこ製品の展示
- ・イベント 鶴見・あいねっとの花を咲かそう

## 子ども・若者のひきこもりや孤立、 困窮をふせぐために私たちができること

子ども、若者の自立支援に関して考えるセミナーです。イラストレーター上大岡トメ氏と、育て上げネット「結(ゆい)」相談員のトークを通し、家族のあり方や支え方について考えます。

- 主催: よこはま東部ユースプラザ
- 【日時】** 2月24日(土)14:00~16:00
- 【会場】** 鶴見中央コミュニティハウス・レクリエーションホール
- 【定員】** 50人(先着順・参加費無料)
- 【対象】** 自立に困難を抱えている若者のご家族、若者支援に携わっている関係者、若者支援の道を目指そうと考えている学生など
- 【申込】** 電話、FAXで、よこはま東部ユースプラザまで  
☎ 642-7001 ☎ 642-7003
- 第3月曜、日祝日を除く11:00~19:00

## 平成30年度鶴見ふれあい助成金説明会

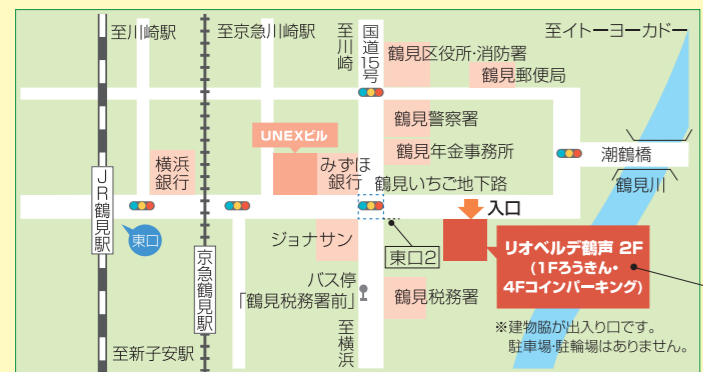
区内のボランティア・当事者団体などに対する助成金制度の説明会です。事前予約不要、当日直接会場にお越しください。

- 【日時】** 3月10日(土)・12日(月)14:00~15:30  
3月13日(火)18:00~19:30
- 【会場】** 鶴見区福祉保健活動拠点(区社協案内図参照)
- 【内容】** 助成金制度概要・申請書類の書き方など  
※手話通訳・保育をご希望の方は2月16日までに申込んでください
- 【問合せ】** 鶴見区社会福祉協議会 ☎ 504-5619

鶴見区社協より <http://www.yturumi-shakyo.jp/>

## 広々・明るい、福祉保健活動拠点です

2016年11月28日、鶴見区福祉保健活動拠点ならびに鶴見区社会福祉協議会は、鶴見川と潮鶴橋の近くにあるビルに移転しました。広々とした団体交流スペースや多目的研修室、相談カウンターになりました。多くの方たちに利用していただけたとうれしいです。



## 「表紙クイズ」& 愛読者アンケート

QUO  
カード  
プレゼント!

表紙の写真を見てピンときた方、ご応募ください。応募は、はがき・FAX・Eメールで、①表紙のクイズの回答②郵便番号・住所・氏名・電話・性別・年齢③福祉つるみを手に入れた場所④ご意見・ご感想を記入の上、2月28日(必着)までに鶴見区社協「アンケート係」へ。

当選は賞品の発送をもって代えさせていただきます。前号の正解は③リオベルデ鶴声、応募者数は25名でした。区社協ホームページにクイズのヒントがあります。ぜひアクセスを。

※「表紙クイズ」応募に関わる個人情報、当選者への賞品発送と「福祉つるみ」紙面作成の参考にのみ利用いたします。



団体交流スペース



相談カウンター



多目的研修室



鶴見区社会福祉協議会

〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央4-37-37 リオベルデ鶴声(かくせい)2階  
☎ 504-5619 ☎ 504-5616 Eメール: info@yturumi-shakyo.jp

編集委員/河西英彦・蔵本美佐子・桑島主税・佐藤智宏

福祉

# つるみ 86

点字・録音版も!

【第86号】2018年2月1日発行/編集・発行◇社会福祉法人 横浜市鶴見区社会福祉協議会 TEL.045-504-5619 FAX.045-504-5616

特集

# 企業の地域貢献

## ここは鶴見のどこの空?

表紙  
クイズ

「紅殻塗り」の赤い門で知られています

応募方法はウラ表紙を  
ご覧ください

- ①馬場の赤門 ②大本山總持寺 ③獅子ヶ谷横溝屋敷

撮影日:2017年11月16日

特集

# 企業の地域貢献

地域の一員として、様々な形で企業が取り組む社会貢献。  
 鶴見区では“地域への貢献”をテーマに掲げて活動をする企業が多くあります。  
 社協にとって、地元企業との協力関係を広げて  
 地域福祉の裾野を広げていくことも重要な役割のひとつになってきました。  
 今回はそのいくつかを紹介します。

## 介護付有料老人ホーム「もみの樹・横浜鶴見」(大和ハウスライフサポート株式会社)

### こども食堂を通じて、 地域にひらかれた施設に

家庭環境の変化からこども1人での食事が増えている中、老人ホームのスペースを生かせないか、と考えた館長の金山善哉さん。地元自治会や学校に協力を呼びかけ、寺尾地区社協と連携したこども食堂(12食限定)が、2017年9月から第2・4木曜日に開かれています。食事の他にも、高校生・大学生のボランティアとともにゲームや余暇を楽しんだり、宿題をすることもあります。「ゆくゆくはホーム入居者とそのご家族とこどもの交流をひろげ、食堂を通じて地域



▲館長の金山善哉さん



▲もみの樹・横浜鶴見(外観)

の人たちにも施設の存在を知ってもらいたい」と金山さんは言います。

●大和ハウスライフサポート株式会社 自立型・介護付有料老人ホームを運営する会社。もみの樹・横浜鶴見のこども食堂には、同社の東京渋谷区の施設が参加している複数のこども食堂プロジェクトのノウハウを導入しました。地域貢献に積極的で、2017年11月、福祉保健講座(寺尾地区社協主催)に協力、職員が講演を行いました。

## 善意銀行寄付者

くらしに、まさに、  
あなたのお金が生きている

**金銭寄付者**(敬称略・順不同) ●中島明高 ●前川和彦 ●Hula Halau Hoaloha Hawaii ●鶴見区仏教婦人会 ●東寺尾商品開発部 ●ハーモニ音楽教室愛する会一同 ●大橋洋子 ●吉澤真一 ●松緑神道大和山横浜教区婦人会 ●豊岡地区民児協 ●小野輝子 ●オール市場地区社会福祉協議会自治連合会 ●上末吉地区社会福祉協議会 ●佐々木淳 ●佐々木悦子 ●安部ヒロエ ●地域ふれあいまつり実行委員会 ●長谷川皓 ●窓口募金箱 ●大本山總持寺三松会 ●旭硝子労働組合京浜支部 ●旭硝子労働組合本部 ●鶴見コンクリート株式会社 ●片田由美子 ●横浜労福協東部支部 ●内田八江子 ●匿名(8)

**物品寄付者**(敬称略) ●パチンコ吉兆グループ(4) ●株式会社弥生京極社 ●匿名

平成29年9月1日~12月31日  
( )内は期間中の寄付回数

### 寄付の方法

①区社協窓口への持参(月~土 9時~17時)  
 ②銀行振込  
 ★物品寄付についてもご相談ください。

### 振込先

横浜信用金庫 鶴見駅東口支店 普通042900  
 社会福祉法人 横浜市鶴見区社会福祉協議会  
 善意銀行 伊藤 学(イトウ マナブ)

●「福祉つるみ」の発行費は、共同募金配分金を活用しています。●「福祉つるみ」では広告を募集しております。●一部地域では、障害者地域作業所が配布しています。●次号(第87号)は2018年6月1日発行です。

## 旭硝子労働組合京浜支部(旭硝子株式会社京浜工場)

### 「ふれあい運動会」に 欠かせないボランティア

2017年で35回目となった「ふれあい運動会」。その1回目から、旭硝子労働組合の人たちが会場設営と競技補助などで参加しています。鶴見区のマスコット「ワックン」に協力することもあります。支部長の岩崎義男さんは、入社時に先輩から誘わ



▲支部長の岩崎義男さん

れたのをきっかけにボランティアに参加。「年に1回のことですが自分たちも楽しめるから必ず予定に入れ」て、26年連続で参加しています。また、職場で募る「年末カンパ」を1985年から続け、寄付金は区社協の善



▲昨年の運動会の様子

意銀行に預託されて有効に使われています。

●旭硝子京浜工場(鶴見区末広町) 1916年、旭硝子鶴見工場として始業。京浜臨海工業地帯を代表する事業所のひとつ。横浜サイエンスフロンティアの一角に位置し、研究開発と建築用板ガラス製造の拠点になっています。2016年11月には始業100周年記念事業の一環として近隣小学校を対象としたガラスの授業、工場見学を実施しました。

## 移動スーパー「とくし丸」(ブルーチップ株式会社とくし丸事業部)



▲▶「とくし丸」巡回販売の様子

スーパー文化堂馬場店から地域へ週2回、たくさん商品を積んだ移動スーパー「とくし丸」の軽トラが走っていきます。外出や歩行が困難になった人の家の前まで行き、自分の目で選んで買物をする楽しさも届けています。2017年2月から始まり、現在では80人が利用しています。事業部リーダーの濱田大樹さんは「回を重ねるごとにお客様からの注文も増えていきます。地域包括支援センター(ケアプラザ)と連携して、定期的に訪問する

### 週2回の移動販売で、 おしゃべりも見守りも

利点を生かして見守りや安否確認にもつなげています」と話していました。

●移動スーパー「とくし丸」 軽トラに地域のスーパーから生鮮品やパン・菓子類、日用品を積んで利用者宅の1軒1軒を巡回販売します。徳島県の(株)



▲事業部リーダーの濱田大樹さん

とくし丸が2012年、徳島市内で軽トラ2台からスタートし、現在は全国でおよそ270台が走っています。商品を玄関先まで届ける付加価値として店頭価格に10円上乗せする「プラス10円ルール」を導入しています。